意見集約・回答

1　津波警報発表時の避難について

項目	意見	回答
情報発信（防災無線・津波サイレン・SNS）	津波サイレンが長く、不安を駆り立てた。 運用に決まりはあるか。早く止めれないのか。	今回、訓練以外で使用するのが初めてであった。津波警報発表後から18時50分頃までサイレンを鳴らしていた。サイレン音がより不安にさせるのも最もである。止めるタイミングを検討するとともに、通常放送でもうまく伝えられるように運用を考えていきたい。
情報発信（防災無線・津波サイレン・SNS）	放送でもっと詳しい情報がほしい。 （津波の情報、避難所の情報等）	津波の避難指示に関しては、正確な情報発信の「早さ」が重要であると考えております。その後の避難所の情報など、正確な情報の発信に努めるとともに、市民のニーズにあった放送・周知内容としたい。
避難すべき対象者	そもそも、どの地域に住む人間が、大津波警報、津波警報又は津波注意報時に避難すべきなのか。	大津波警報、津波警報では海、浸水想定（ハザードマップ色付き）地域の方はただちに近くの避難場所や高台に避難してください。 津波注意報では、海・浜辺にいる方はただちに海岸から離れ、高台へ避難してください。 なお、津波は2～3時間は注意が必要です。川や海に近づかないようにし、自宅・避難所等でいつでも逃げれるよう最新の情報にご注意ください。
避難すべき対象者	海水浴シーズンにおいては、海水浴客の避難誘導は誰がするのか。	ライフセイバー、監視員及び浜茶屋により行います。夏シーズン前の説明会で共通認識としております。また、利用者に対して津波の避難場所の事前周知方法を担当課（商業観光課）と検討しています。
避難方法	町内会として、津波の浸水想定区域に住家はない。そのため、避難の必要がなく、地震に対してのみ安否確認を行った。このような行動は適正であったか。	自主防災会（町内会）、町内会の住民は極めて適正な行動を取ったと思います。日頃からハザードマップを理解し、災害種別に応じた行動を継続していただきたい。
避難方法	防災ガイドブック上の「沿岸地域」より外の地区は津波に対してどのように避難すればよいか。	ハザードマップに基づくと避難の必要はありません。想定最大の柏崎への津波によって、ハザードマップに網掛けで着色された部分が浸水します。ハザードマップでは浸水が想定されない沿岸地域についても、一段上の安全策として、大津波警報及び津波警報時に避難場所や高台への避難、津波注意報であっても逃げられる準備をして自宅待機を呼び掛けています。
避難方法	長岡や高柳地区まで避難した方がいると聞くが、どこまで避難すべきだったのか。	沿岸地域外の地域（例：西中通、比角、枇杷島、剣野等）は津波による浸水は想定されていないため、津波に関する避難は沿岸地区の浸水想定区域の方のみです。
避難方法	高台とはどこをいうのか（標高でどれくらい）	主な高台は津波ハザードマップに図示してあります。これは過去にハザードマップ作成時に地域との話し合いで確認して、図示しています。
避難方法	基準水位より標高がある場所に避難すれば安全か。	一般的にはそのとおりです。ただし、地形によっては波が高くなるところもあります。
避難方法	近くに高いところがない場合はどうしたらよいか	海を背にした方向に逃げてください。低い所であっても海から遠くであれば津波が届きにくくなります。今後、ハザードマップには避難する方向も図示する予定です。
避難方法	中央地区より番神のほうが標高が高いため、橋を利用して逃げたが問題ないか。	逃げる方向はより標高が高いところへが正しいです。しかし、河川遡上を考慮すると、海近くの橋を渡ることは避けたほうがよく、遠回りでも、海から離れた橋をご利用ください。
避難方法	ガイドブックではより高い場所を目指して避難するとあるが、そうなれば、車を使わざるを得ないのではないか。どこまでの高いところを目指せばよいか。	「高い場所」とは、一般的にせり上がりを考慮した津波の水位より高い所であり、ハザードマップに図示されています。一般イメージとは異なるかもしれませんが、柏崎への津波の影響は大部分が海岸線にとどまります。
避難方法	車による避難によって渋滞が生じた。適切な避難方法は。	原則は徒歩での避難です。例外は避難行動要支援者（自力移動が難しい者）です。今後は防災行政無線及びエリアメールの活用による適切な避難の方法及び避難の場所の呼びかけを検討します。また避難する必要のない方に津波時の避難の必要性の認識を持っていただくように周知に努めます。
避難方法	子どもや高齢者が世帯にいるが、車を使わないと避難が難しい。そのような場合は車を使った避難は可能か。	そのとおりです。原則は徒歩としているのは、車を主な手段としたときに渋滞が発生し、結局避難できないことを防ぐためです。例外として、徒歩での避難が不可能であればお使いください。
避難方法	遠くへの避難が困難な場合は、自宅の２階への垂直避難でもよいのか。（ガイドブックでは立ち退き避難が原則ではあるが・・・）	親族、近所の方、自主防災会の協力のもと、可能な限り立退き避難をする方法をご検討ください。
避難方法	町内会（自主防災会）では避難行動要支援者の支援には限界があるのでは。	初動時は安否確認等、最大限できうる対応をお願いしたい。
避難方法	逃げることができない者はどうしたらよいか。	柏崎においては、津波の影響は大部分が海岸線の一部に留まることが想定されています。逃げることができない場合は、自宅内の高いところへ上る、近隣の方と自動車で逃げるなどを検討してください。
避難方法	高台避難をいつまで続けてよいかわからなかった。市からの細かな情報が欲しかった。	反省点・課題として認識しております。防災行政無線・市HP・SNSでの細かな情報発信方法を検討しております。

意見集約・回答

2　避難場所・避難所について

項目	意見	回答
避難所・避難場所	避難場所と避難所の違いは何か。	避難場所は、発災直後に避難して、津波など災害の危険から逃れるための場所です。例えば標高が津波より高い学校のグラウンドなどです。 避難所は、自宅が被災して帰宅できない場合など長期的な避難生活を送るための施設を基本としています。例えば学校の体育館などです。
	避難場所が海に向かう方向にあるのは無理がある。誰も逃げてこないのでは。	課題として認識しています。ハザードマップ更新時には避難する方向も図示したいと考えています。併せて、地域の皆様からの意見を基に 津波時の避難場所の指定・廃止の参考にさせていただきます。
	避難所として指定されている避難所の鍵が開いていなかった。 （まちから、工業高校等）	まずは津波対応している避難場所へ向かってください。優先開設避難所は職員が駆けつけて開錠するまでに時間を要する場合があります。その他施設も同様です。初動は避難場所としてお考え下さい。なお、米山コミセン、鯨波コミセンは津波災害時は開設しません。
	開いている避難所でも、2階以上に上がれず意味がない。	津波の影響は主に海岸線に留まる想定です。避難所の2階以上に避難が必須とされているものではありません。沿岸地域の避難所で、防災ガイドブックで〇がついているところには避難ができます。
	避難場所にいつまでいるべきなのか。身支度する間もなく避難した。 冬季間は長時間の避難で体が凍える心配がある。	日本海は佐渡と能登半島があるため、2～3時間程度は津波の影響が残ると言われております。体調に不安がある場合は、周囲の異変に気を付けつつ、津波対応で開設している避難所へ向かってください。
	地区外の避難場所（例：中央地区→比角地区の避難場所）や ガイドブックに記載のない避難場所への避難はよいか。	もちろん結構です。命を守る最善と判断した行動をお願いします。
	小中学校が避難所の場合、体育館では寒い。そもそも教室を開放できないのか。	課題として認識しています。学校の管理区域であり、施設管理者と最善の方法を検討しています。施設により可能な範囲で暖房のある部屋への移動等柔軟に対応しているところもあります。 ただし、避難人数により体育館でしか対応できない場合等もあります。
	ガイドブックには記載のない公共施設も避難所として、即座に開放してもらいたい （例：まちから、市民プラザ、高校）	職員が対応し、開設する避難所の数には限りがあります。 安全な町内集会施設などは地域の自主防災会の判断で開放していただくことは自由です。迅速に開設できるよう施設管理者と検討してまいります。
	町内会と民間施設で災害時の避難先として取り決めを交わしている。 その民間施設に避難した場合に、市の備蓄食料を民間施設に配送してもらえるか。	基本は優先開設避難所への物資配送となるが、開設状況が分かれば、状況に応じて対応は可能と考えます。まずは、避難後にその民間施設に避難していることを市（市民課、防災・原子力課）に連絡してください。
	避難所の停電対応及び暖房の確保について	発電機、蓄電池、石油ストーブの備蓄を増やした。必要時に配布したい。
	避難所表示看板・津波避難誘導看板が道路から離れているものなどは 夜間や積雪時でも判別可能としてもらいたい。	夜間や積雪時に確認し、夜間照明等が必要か判断したいが、まずは地域の方が最寄りの避難場所・避難所を把握していただきたい。
	避難所及び避難場所の周知・啓発方法はどう考えているのか。	本日、沿岸地区全町内会への意見交換会を実施。今後は避難所・避難場所の見直しを検討し、指定・廃止については地域の方と協議した上で決定し、決定後は対象地区への報告。市HP等で周知を図りたい。
	優先開設避難所の開設基準、閉鎖の基準が不明確。市民への周知が必要ではないか。	市の基準は設けてある。例えば震度5弱の地震では本部からの指示がなくとも職員が担当の避難所へかけつける。閉鎖については状況次第ではあるが、避難者がゼロとなった場合や災害発生リスクが低くなった場合である。今後、災害種別により明確に示せる基準であれば示したい。

3 津波ハザードマップ・防災ガイドブックについて

項目	意見	回答
河川遡上	河川遡上はどの程度気を付ければよいのか。	ハザードマップは河川遡上も最大の津波を考慮して作成されています。
	各河川どの程度遡上するのか。	河口付近の高さを維持したまま河川遡上する可能性がある。 ただし、河川の深さや河川の河口への流れにより勢いの抑制が働く
	海から河川に津波が入れば、津波の速さは速くなり、高さは高くなるのではないか。 津波が堤防を越えて住家に浸水する可能性はないのか。	水量、河口と河川の高さにより一概に言えるものではありません。
津波	ハザードマップに載っている浸水想定は、どの地震で、どの程度のものか。	大部分が上越・糸魚川沖(F41）断層Mw7.6、観音岬より北が越佐海峡（F38）断層Mw7.5及び佐渡西方・能登半島北東沖（F42）断層Ｍｗ7.3によるものである。
	最近報道にある割れ残り断層（国の断層モデルF42）が心配だ。	すでにハザードマップには、その影響を反映して図示してある。
	津波水位と安全な標高の関係は	一般には標高＞津波水位であれば安全です。ただし地形によっては、津波水位が予報より高くなるため注意してください。
	マグニチュードと津波の高さについてどのような関係があるか	M7.4で3m以上の津波、M6.5で1m以上の津波、M6.2以下は津波が予測されないことが概ね分かっています。F42佐渡西方・能登半島北東沖による断層はMw7.3を想定しており、3mの津波予測となります。この場合、ハザードマップに図示された程度と思われます。
	津波警報基準の3mの波でどの程度の被害となるのか。	具体的な程度は答えることはできないが、柏崎の大部分の堤防高は5.5mであり、被害は小さいものに留まると考えている。なお、ハザードマップは笠島地点約6mの津波水位を想定として図示している。
避難所	防災ガイドブックは避難場所及び避難所の表記がわかりにくい。	来年度予定している防災ガイドブック更新時に見直したい。
	防災ガイドブックは避難が本当に必要な人がわかりやすいものにしてもらいたい。	来年度予定している防災ガイドブック更新時に見直したい。
	防災ガイドブックの認知が低いのでは。	広報2月号配布時に、全戸にチラシ配布し、改めて周知した。

4　その他

項目	意見	回答
訓練	沿岸地区は津波についての訓練が必要ではないか。 今回の地震後に町内会で訓練を予定している。	近年、津波に対する防災訓練を実施している町内会は少ないと認識しております。今回の経験を踏まえ、積極的に訓練の実施をお願いしたい。 市と連携した訓練についても検討していきたい。
アンケート	避難方法について。移動手段をアンケート調査してみてはどうか。	アンケート実施前に、意見交換会で地区ごとの意見をお聞きしたい。